

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和7年12月18日）

1 主な報告等

(1) 第2回留置管理担当課長会議の開催について

委員から、下の立場にある職員は、なかなか意見を言いつらいだろうから、そういう者が処分されないように適正な業務運営が大事だと思う。事故再発防止策を考える上で最も肝要なのは、真因は何かを探ることだ。根本的な問題まで遡り、それを根絶やししなければ目先の対策だけで終わってしまう。留置場勤務は、警察署の中でも特殊なところなので、特有のつらさもあると思う。真の理由は何かを探り、小さなルールが愚直なまでに守られるよう各警察署と認識を共有して改善を図ってほしい旨の発言があった。

(2) 県警察における高度サイバー人材確保・育成方針について

委員から、専門の技能にたけた人材を確保し、養成していくことは時間や労力もかかり、とても難しい。今回、サイバー犯罪捜査官のキャリアパスを明確にしたことは、有効な手段だと思う。それぞれが目標意識を持ち、将来に向けて意欲的に取り組めるようになるだろう。今後は、能力に応じた昇級（公安職棒級表の見直しなど）や待遇といった適正な処遇も検討してほしい。他県警察のサイバー犯罪捜査官の中には、処遇は民間にはかなわないが、それ以上のやりがいを感じると話している職員がいるということを知ったことがある。警察官の基礎となる誇りと使命感を培うことにもしっかりと取り組んでほしい旨の発言があった。

(3) 国指定天然記念物違法採取事案被疑者の検挙について

委員から、他機関と連携し、粘り強い捜査をしたことがよくわかった。天然記念物に指定された動植物を密猟してペットにしたり利益を得ようとしたりするなど、許されないことだ。今回の逮捕が、密猟をたくらむ人たちへの警鐘になってほしいと思う。今後とも厳しく取り締まってほしい旨の発言があった。

(4) 那覇市港町における企業恐喝事件被疑者の検挙について

委員から、検挙に至るまで捜査員の努力は大変だったことと思うが、被疑者はその後起訴までされており、的確な捜査が行われていた成果だろう。ほかにも余罪があることも考えられる。企業恐喝事件の解決により、労働環境の改善につながることもあることから、今後ともしっかりと捜査をしてもらいたい旨の発言があった。

(5) その他

警察本部から、サイバー犯罪捜査官のキャリアアップの道筋を示した。今やサイバーを使った犯罪捜査は生活安全部門だけではない。サイバー犯罪捜査官は組織を牽引する存在である。彼らに活躍してもらって力を伸ばしてもらうのはもちろんのこと、他の捜査員もそれに感化されて能力を伸ばし県警全体のレベルアップが図られるよう運用していきたい旨の発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について（2件）
- ・ 公安委員会が保有する公文書の開示等に関する規則の一部を改正する規則について
- ・ 特例施設占有者への指定について
- ・ 裁決書の裁決について（2件）
- ・ 審査請求の受付について（2件）

(2) 生活安全部

- ・ 飲食店営業者に対する行政処分（営業停止命令）について

(3) 地域部

- ・ 公安委員会宛て苦情の調査結果について

(4) 交通部

- ・ 自動車運転免許の行政処分について
- ・ 令和8年度運転免許関係の業務委託に適する法人等の認定審査結果について

(5) 警備部

- ・ 警察職員等の援助要求について